

## ミニ特集

# 現役プロ棋士に勝ち越した コンピュータ将棋

～第2回電王戦，第23回世界コンピュータ将棋選手権速報～

## 編集にあたって

伊藤毅志 (電気通信大学)

2013年3月～4月にかけて開催された第2回将棋電王戦は、プロ棋士 vs. コンピュータ将棋の5対5のガチンコ対戦が行われ、コンピュータ側から見て3勝1敗1分と勝ち越した。

これまでの、プロ棋士とコンピュータ将棋との公の場での平手対戦の歴史を表-1で遡ってみよう。

2005年頃までは、プロ棋士との対戦はほとんど駒落ちが中心であったのでこの表には載せていない。2005年9月に橋本崇載五段（現在八段）にTACOS（北陸先端科学技術大学院大学：橋本剛ら開発）が挑戦した対戦が初のプロ棋士との公の場での平手対局であったが、この将棋の内容が、プロ棋士を震撼

年	月	日	イベント	主催	コンピュータ	対戦プロ棋士	コンピュータから見た勝敗	持ち時間	秒読み
2013	4	20	第2回将棋電王戦	ドワンゴ・日本将棋連盟	GPS 将棋	三浦弘行 八段	○	4 時間	1 分
		13			Puella α	塚田泰明 九段	△ (持将棋)		
	6	ツツカナ			船江恒平 五段	○			
	3	30			ponanza	佐藤慎一 四段	○		
		23			習甦	阿部光瑠 四段	×		
2012	1	14	将棋電王戦	日本将棋連盟・ドワンゴ・中央公論新社	ボンクラーズ	米長邦雄 永世棋聖	○	3 時間	1 分
2011	12	21	将棋電王戦 プレマッチ	ニコニコ生放送	ボンクラーズ	米長邦雄 永世棋聖	○	15 分	60 秒
2010	10	11	コンピュータからの挑戦 特別対局	駒桜	あから 2010	清水市代 女流王将	○	3 時間	1 分
2007	3	21	大和証券杯特別対局	大和証券	Bonanza	渡辺 明 竜王	×	2 時間	60 秒
2006	1	3	コンピュータと手合わせ	共同通信	激指	岩根 忍 女流初段	○	30 分	1 分
2005	9	18	第29回北國王将杯争奪将棋大会	北國新聞	TACOS	橋本崇載 五段	×		

表-1 コンピュータ将棋と人間の対戦の歴史

させた。TACOS が終盤でミスを連発し、結果として逆転負けとなったが、内容的には TACOS が橋本五段を圧倒したものだ。

この直後、日本将棋連盟が、「連盟に許可なくプロ棋士がコンピュータと公の場で対局することを禁止する」という通達を出したのは、非常に素早い判断であった。その後、大幅に対局が制限されることとなった（激指と岩根忍女流初段との対戦は、上記の通達以前に決まっていた対戦であったために実現した）。

2007 年には、大和証券による新しいネット棋戦が開催されることを記念して渡辺竜王と Bonanza とのエキシビジョンマッチが行われるも、当時のコンピュータの実力ではトッププロ棋士との対戦は時期尚早で、善戦するも下馬評通り渡辺竜王が勝利を収めた。

時が流れ、2010 年に、本会の 50 周年記念イベントとして対戦が実現した清水市代女流王将とあから 2010 との対戦では、コンピュータ側が勝利を収めた。その後、2012 年には電王戦という形で、将棋連盟会長の米長邦雄元名人自らがコンピュータと対戦し、コンピュータ側が連勝している。2007 年以降、コンピュータ将棋は着実な進歩を遂げており、清水女流との対戦でも米長邦雄元名人との対戦でも、コンピュータ側が有利ではないかという予想通りの結果となった。今年開催された第 2 回電王戦は、この流れを受けた対戦であり、段位はバラバラながら、若手のホープからベテラン棋士、タイトル経験者など現役バリバリのプロ棋士らが 5 名揃い、勝敗が注目された。結果は上述の通りであるが、特に A 級棋士の三浦弘行八段が、GPS 将棋に敗れた将棋は衝撃的であった。詳細は特集内の解説記事をご確認いただきたいが、コンピュータがトッププロ棋士の一人を撃破した。この 5 局だけでコンピュータの

棋力を議論するのは軽率かもしれないが、ここ数年のプロ棋士との対戦を見る限り、すでにプロ棋士に並び、トッププロ棋士に迫っていると言わざるを得ないだろう。

この特集では、第 2 回電王戦とその直後に行われた第 23 回世界コンピュータ将棋選手権について、さまざまな立場の方々に書いていただいた。まずは、電王戦全 5 局について、アマチュアトップ棋士でコンピュータ将棋にも造詣が深い古作登氏に専門的視点から解説していただいた。また、電王戦最終局でトッププロ棋士の一人である三浦弘行八段に勝利した GPS 将棋の金子知適氏と田中哲朗氏には、そこで使われた技術について解説していただいた。さらに、日本将棋連盟理事であり電王戦立ち上げから尽力されてきた北島忠雄五段には、プロ棋士の視点から電王戦について振り返っていただいた。

電王戦直後に開催された第 23 回世界コンピュータ将棋選手権については、その概要をコンピュータ将棋協会会長の瀧澤武信氏に説明していただき、第 16 回以来 2 回目の優勝を果たした Bonanza の保木邦仁氏には、久しぶりの優勝を果たした技術について解説していただいた。本会の「トッププロ棋士に勝つコンピュータ将棋プロジェクト」のリーダーである松原仁氏には、第 2 回電王戦の結果を受けて、今後のプロ棋士とコンピュータ将棋の対戦の行方と今後のコンピュータ将棋の進むべき方向性について展望していただいた。

人を超える知を獲得しつつあるコンピュータ将棋と人間の関係は、今後人工知能と人との関係を考える上で興味深い試金石になり得るかもしれない。さまざまな視点からの著者を集め、それぞれの視点から書いていただいた。この特集により、将棋を通して人間の知のメカニズムを考える一助になれば幸いである。

(2013 年 7 月 13 日)